

正当な納税者

比嘉結（沖縄・北中城村立北中城中学校）

私の父は飲食店を経営しており、朝から晩まで私たちのために仕事に励んでくれています。しかし、二〇二〇年、新型コロナウイルス感染症の流行により、お店は時短営業や休業要請を何度も受けることになりました。お店を開けなければお客さんは来ないし、来なければ収入にはなりません。父はこの状況が続くと厳しいと、頭を抱えていました。私もこのままだとお店が潰れて、今までの生活ができなくなるのではないかと心配でした。

新型コロナウイルス感染症から二年が経った今、私はこれまでと変わらない生活ができています。それはなぜかというと、父が様々な助成金を受けながらお店は変わらず営業できているからです。

例えば「うちなーんちゅ応援プロジェクト」で沖縄県からの給付金で、お店の経費を賄えたそうです。また新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業主が従業員に支払う休業手当等の一部を助成する制度「雇用調整助成金」では、何度も休業しても、従業員の雇用を守り、金銭面の安心感を得られたいと話していました。これらの全ての助成金が税金から出されていると知りました。

私は今まで「税金」というものは中学生の私には関係のないものだと思っていました。しかし、コロナ禍において父のお店は税金に支えられて安定できています。もし「雇用調整助成金」などがなければもしかしたら今頃経営がうまくいかず生活までもままらなくなるかもしれません。コロナ流行によって父の仕事、私達家族の生活は「税金」によって支えられていたことを知りました。その他にも、私の生活で身近な税の使い道として、家で顔を洗ったり、お風呂で使う水を毎日使えるのは、税金を使って水道の整備をしているからです。また、学習に必要な教科書やタブレット、実験用具等にまで「補助金」というかたちで税金が使われています。給付金等を不正受給したというニュースを見ると少し腹が立ちました。税金は私達が健康で文化的な生活を送るために国民みんなで出し合っているお金です。それを本当に必要とする人や事業に使われるべきだと思います。

中学生の私にできる事はまず、税について正しい知識を得ることです。年々、納税をする人が減少しているので、「納税の義務」とは何かをしっかりと理解していきたいです。私が大人になってもその後も豊かで安心して暮らせる未来のために税金を正当に納められる人になりたいです。